

文学作品にみる「あらし」

マキノ町小荒路から福井県敦賀市足田にいたるルートは、古くから北陸道（北国街道）の一部として知られており、「あらし」はこのルート一帯で使われた地名であると考えられています。この一帯は古くから積雪の多さや道の険しさから難所として知られており、この地を通った人々のさまざまなおしを、和歌や軍記物語の中からうかがい知ることができます。

和歌の中の「あらし」

この「あらし」の情景を詠んだ



小荒路から「あらし」を望む

と考えられる和歌は多く、その数は数百にのぼるといわれています。中でも、鎌倉時代にまとめられた私選和歌集『夫木和歌集』にある「あらし山 雪げの空になりぬれば かいつの里に みぞれふりつつ」は、越前国の役人藤原仲実が詠んだものです。「あらし」や「かいつ」といった地名から、歌はこの一帯を通った時に詠んだものであることがわかります。その他にも雪景色や雪の多さ、険しさなどを詠んだものは多く、今も変わらない雪路の厳しさなど自然の情景を感じることができます。

軍記物語の中の「あらし」

平安末期から室町時代にかけての争乱を題材にした軍記物語の中にも「あらし」を通って戦場へ向かうようすが分かるものがあります。『平家物語』や『源平盛衰記』によると、源頼朝の鎌倉挙兵に呼応した木曾義仲を討つために京を出て北陸に向かう平氏10万の兵がこの一帯を通ったとされています。

また源義経の幼少期と京を追わ



* 地理院地図vectorをもとに文化財課が作成

「あらし」周辺図

れ東北へと逃れる北国落ちを描いた『義経記』の一節「愛発山の事」には、義経たちが「あらし」の語源について語り合う場面が出てきます。義経は、昔は「あらしの山中」といったが、道が険しく血を流すところから「荒路・荒血」になったといい、弁慶は険しい山はどこも一緒であり、ここで出産があったことから「新血・荒血」というのだと義経に説明します。

ほかに「あらし」は、その一帯の山のかたちを指して「有乳」や険しい道を指して「荒路・荒道」と表現されていたりもします。また古代に近江と越前の国境にあったとされる関は「愛

発」と表現されるなど、「あらし」のさまざまな漢字から、この地名に対する当時の人々の思いをうかがい知ることができます。

文化財課 (25)8559

編集感

皆さん、ウィンタースポーツはされていますか？
表紙の写真は、スノーシュー体験会に参加させていただいた時の一コマです。この日は天気にも恵まれ、冬のたかしまを満喫することができました！日常生活において、ほぼメリットのない雪ですが、「親雪」の気持ちで、市内で楽しめるスノーシューを皆さんも楽しんでみてはいかがでしょうか。(Y)



広報たかしま

令和4年

3

月号

No.266

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課

滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25)8000(代)

http://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp